

# トランプ氏の大統領選勝利を受け、新興国では資本流出圧力発生

大規模なインフラ投資や減税

米国の景気  
拡大期待 ↑

米国の期待  
インフレ率 ↑

米国の財政  
リスク ↑

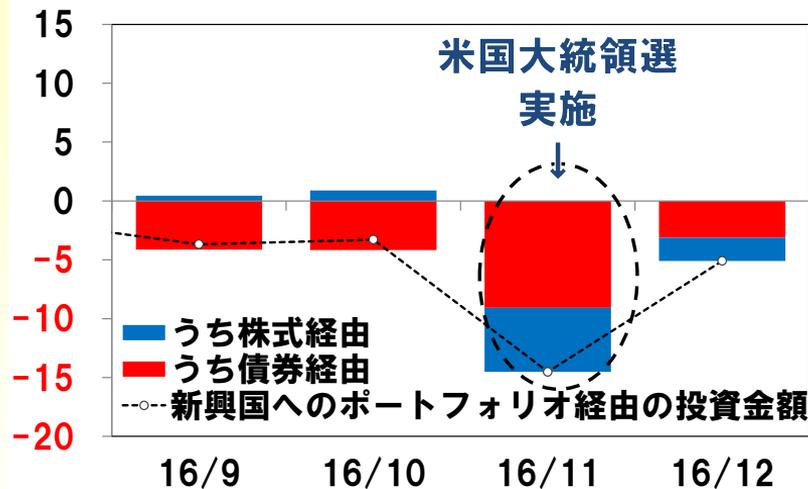
米国金利 ↑ ≒ 米国の金融資産に  
投資する魅力が高まる

新興国では資本流出圧力が発生

# 資本流出圧力はにわかに高まったがその後緩和

## 資本流出入金額の推移

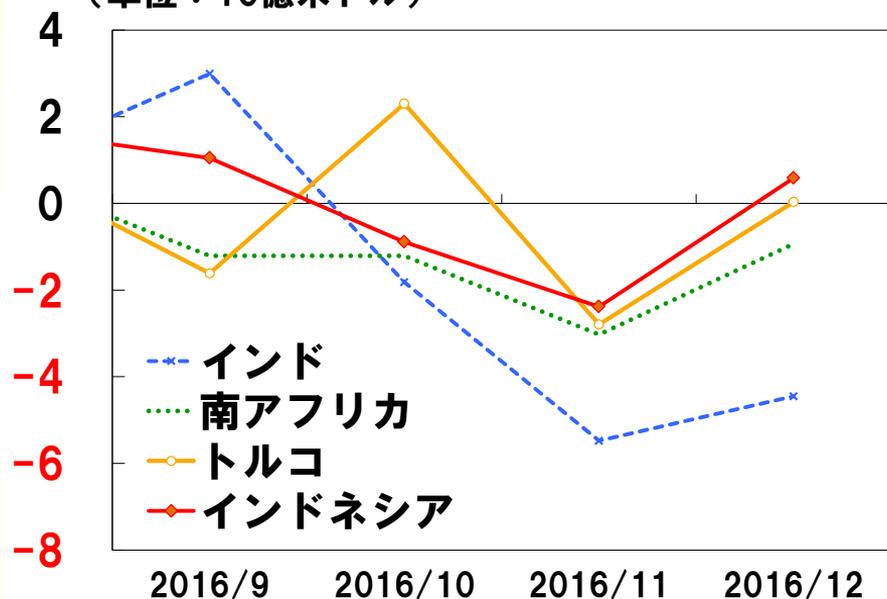
(単位：10億米ドル)



- (注1) ブラジル、インドネシア、南アフリカ、トルコ、インドの合計値  
 (注2) 非居住者による投資金額  
 (注3) 2016年12月のブラジルの債券に関するデータは未発表(2017年1月23日時点)  
 (出所) Bloombergより大和総研作成

## 資本流出入金額の推移

(単位：10億米ドル)

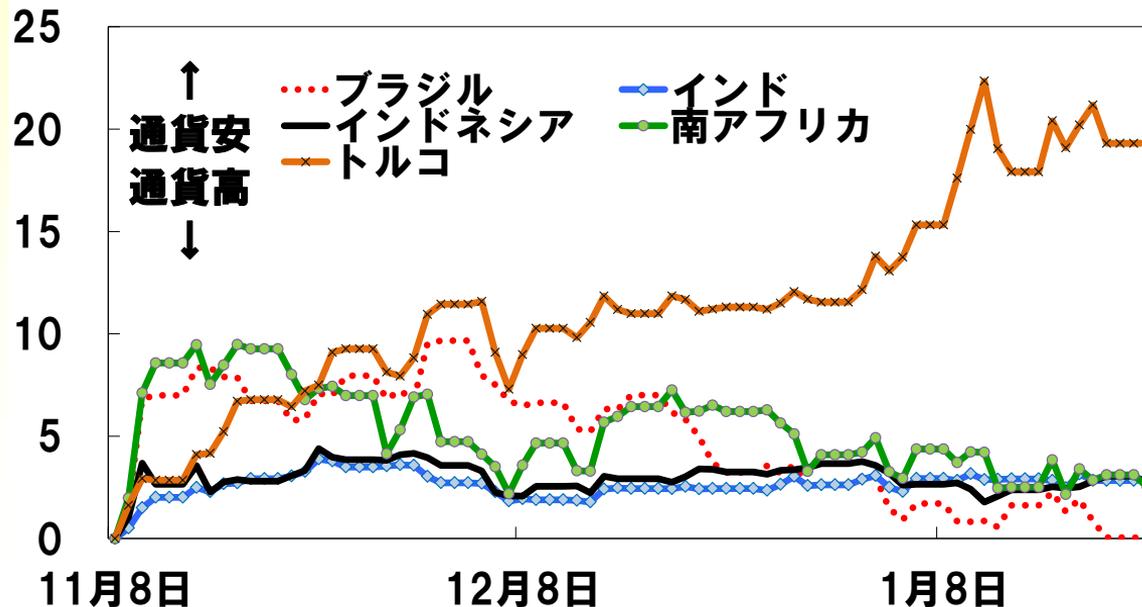


(出所) Bloombergより大和総研作成

# 為替レートも安定化

## 対米ドル為替レートの推移

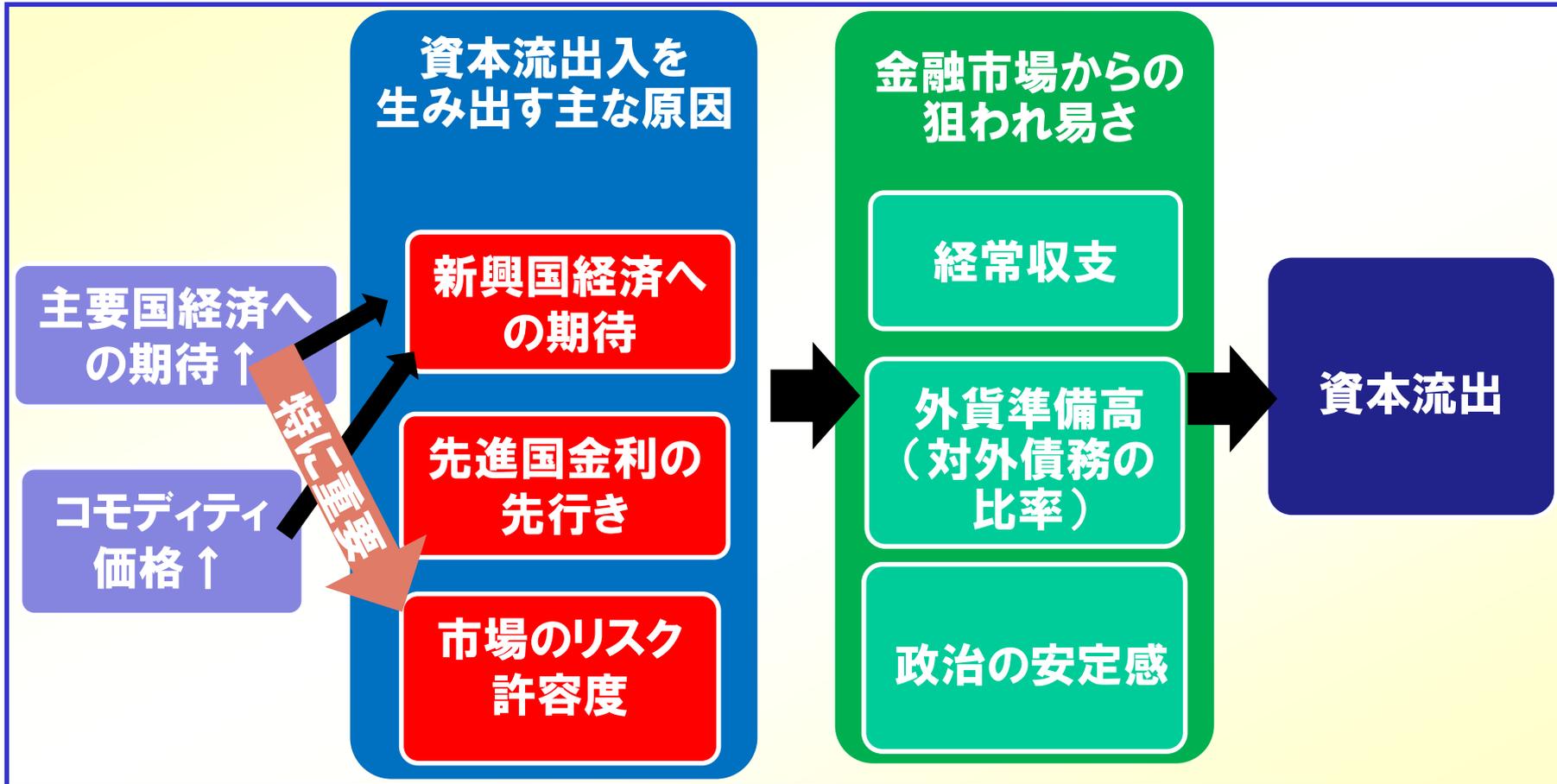
(単位：2016年11月8日を基準日とした下落率、%)



(注) 最新値は2017年1月23日

(出所) Bloombergより大和総研作成

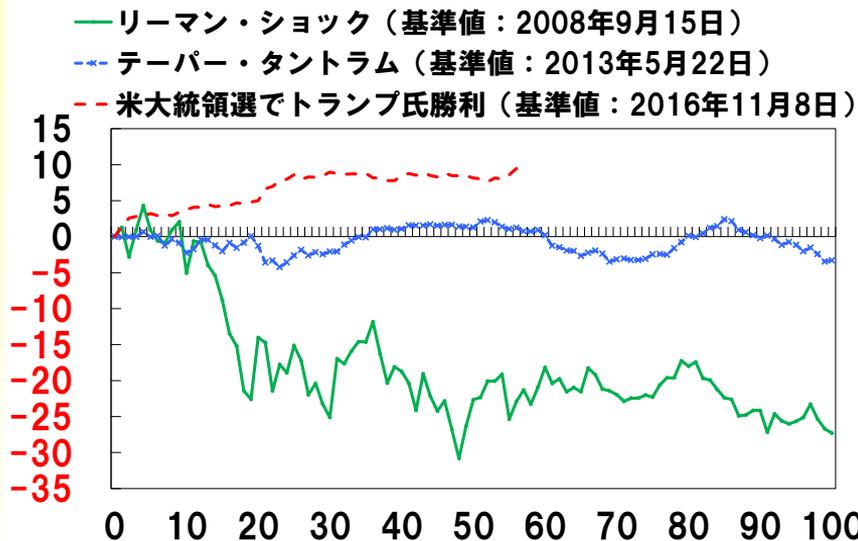
# ある国で資本流出が発生するメカニズムの例



# 米国経済への期待感が金融市場のリスク許容度を拡大か

## ダウ工業株30種平均の推移

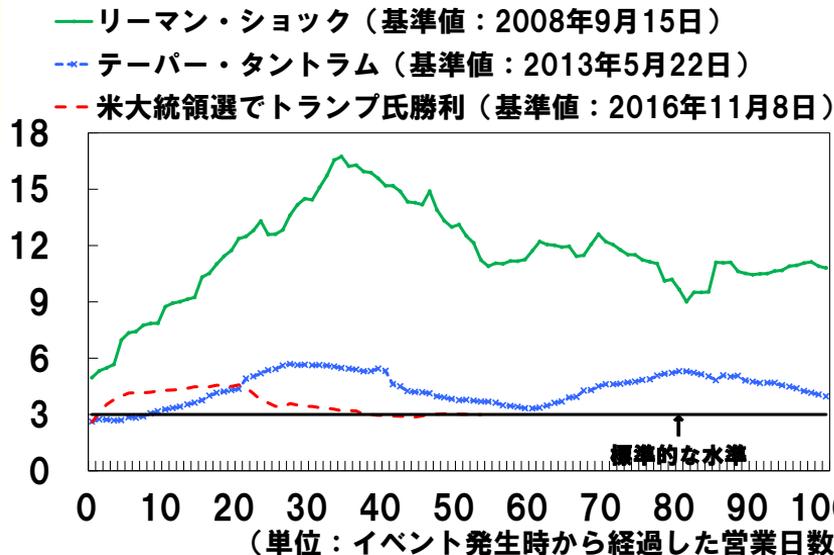
(単位：イベント発生時からの変化率、%)



(注) 最新値は2017年1月25日

(出所) Haver Analyticsより大和総研作成

## 新興国市場のボラティリティの推移



(注1) 最新値は2017年1月20日

(注2) 対象となる金融市場は株式市場、債券市場、為替市場

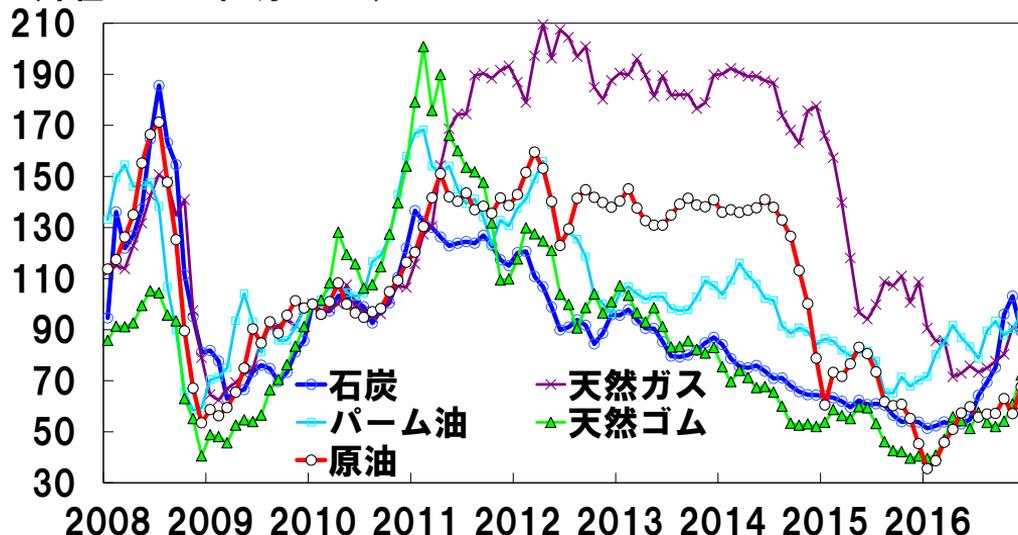
(注3) ブラジル、チリ、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、メキシコ、ポーランド、ロシア、南アフリカ、タイ、トルコの水準を(名目GDPで)加重平均

(出所) 国際通貨研究所より大和総研作成

# コモディティ価格の回復は資源国にとってプラス

## コモディティ価格の推移

(単位：2010年1月=100)

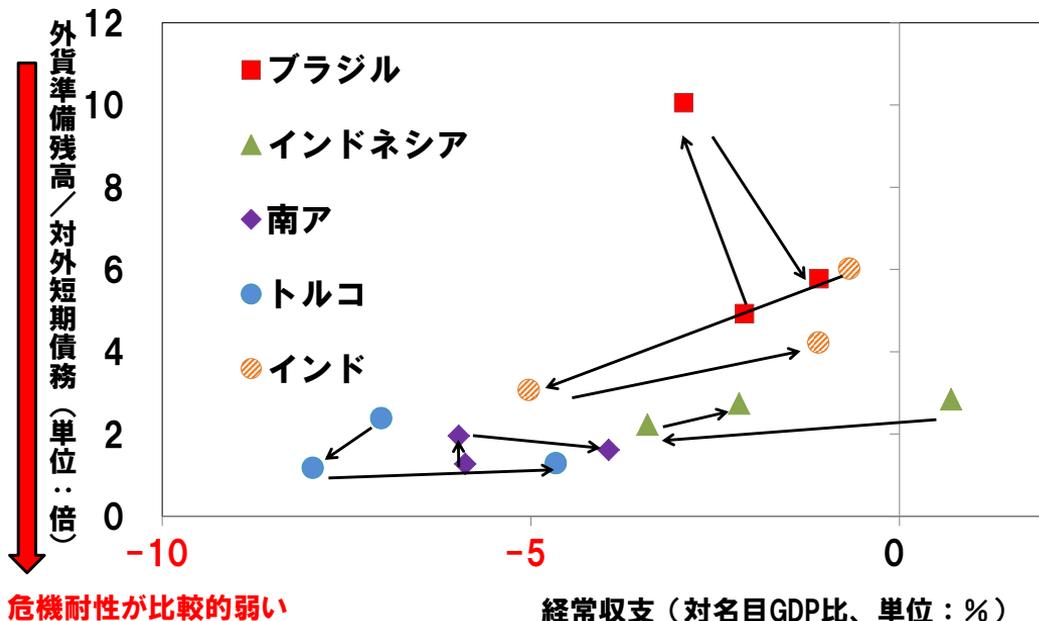


(注) 原油：ドバイ原油価格 天然ガス：インドネシア産LNGの日本での消費価格 パーム油：マレーシア証券取引所の先物価格 天然ゴム：シンガポール商品取引所の取引価格 石炭：オーストラリア産石炭がニューキャッスルまたはポートケンプラから輸出される価格

(出所) IMFより大和総研作成

# 金融市場から狙われ難くなった新興国

## 危機耐性の変化

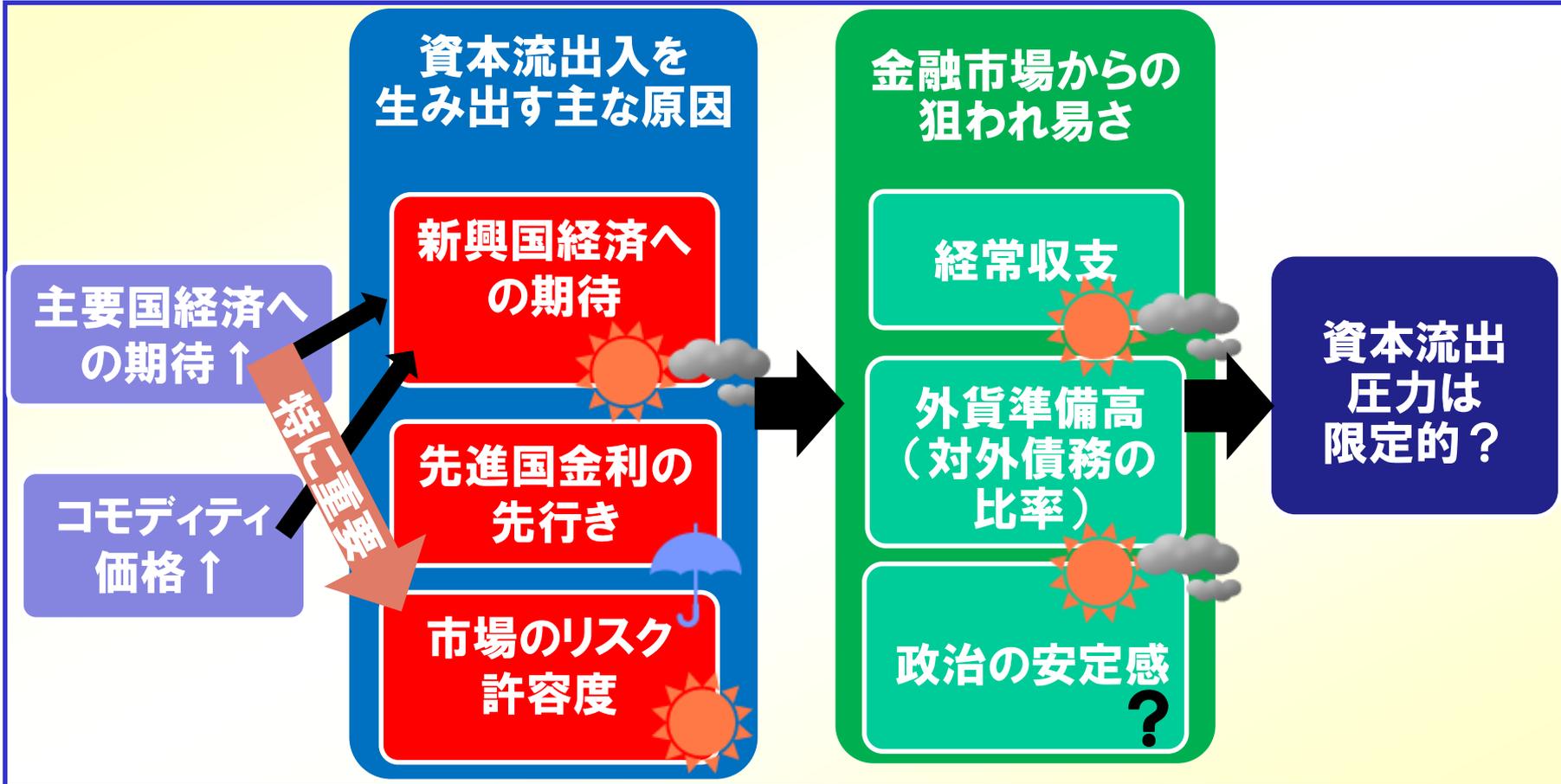


(注1) ブラジル、インドネシア、南ア、トルコ：2008年1-3月期と4-6月期の平均値⇒2013年1-3月期と4-6月期の平均値⇒2016年1-3月期と4-6月期の平均値への変化を示した。

(注2) インド：2007年末⇒2012年末⇒2015年末への変化を示した。

(出所) Haver Analyticsより大和総研作成

# まとめ：資本流出圧力は限定的か



# ただし、シナリオの前提が崩れるリスクには要注意

・米国経済が金利高、米ドル高を受けて下押し圧力が高まる  
・トランプ政権がインフラ整備計画を断念

・米国が中国などと貿易戦争勃発

・トランプ政権下で環境規制の緩和  
⇒原油等のコモディティの生産増

主要国経済への期待↓

コモディティ価格↓

資本流出入を生み出す主な原因

新興国経済への期待

先進国金利の先行き

市場のリスク許容度

暴落懸念

